市長と語る～まちづくり懇談会～　串原

日時：令和元年 6 月 26 日（水）午後 7 時～8 時 40 分
場所：串原コミュニティセンター

「はたらく」「たべる」「くらす」「まなぶ」の主要事業について

■市長　串原について。人口と世帯の数。人口全体では平成 17 年の合併当時 971 人、平成 30 年度は 766 人。世帯数は概ね変わらず、299 世帯から 304 世帯で増えている。生まれてくる子どもの数は、直近では 3 人だったが今は 2 人。昨年 2 人で、今は 4 人。小学校の児童数、中学校の生徒数、6、3、9、7、3、3。5、6、4。小学校と中学校の活動の様子も写真でお持ちした。

くしはら温泉ささゆりの湯の利用者数は平成 30 年度実績で 10 万人を超えた。前年比 20%近くのアップ。キャンプ場は 6600 人で前年比 5 割増し。空白地有償運送のくしばす、昨年 10 月にスタートし、半年間の利用実績 385 人ということ。買い物支援は恵南商工会と協定し、くるくるまめショップを利用していただいている。

関係人口の一つだと思うが、中山太鼓には大変多くのファンが来ている。市内外、地域内外から多くの人に来ていただいている。へぼ祭り。平成 30 年度来場者 1500 人という公式発表。こうしたコアな祭りがコアなファンをつくる。それが関係人口として考えられる。

奥矢作レクリエーションセンター。これは奥矢作森林塾の皆さんが指定管理している。こうしたいろいろな取り組みがされている。

意見交換

■司会　今まで硬い会議をやってきたが、お茶を飲むような雰囲気でやりたいという意見が多かったので、飲み物とお菓子を準備した。口を滑らかにして意見交流をしてほしい。

今日準備したもの。青い恵那をイメージした青い折り紙の上にお菓子を並べた。お菓子は、人口が減少していてマイナスイメージがある串原だが、今日の会議によって串原がハッピーターンになるきっかけになればと、ハッピーターンを用意した。また、受験生に人気のキットカット、串原が負け組ではなくきっと勝つという意味で置いている。大人の甘さは大敵なので大人の甘さは食べてなくしてほしい。

飲み物は、コーヒー牛乳。世間では会議時のペットボトル飲料の提供をやめよう、ゴミ問題に配慮しようという流れで東京都はすでに取り組んでいる。東京に続くのは串原だろうということで、今日はくしはら温泉ささゆりの湯で販売しているコーヒー牛乳を用意した。温泉のお風呂上りに友だちとしゃべるような雰囲気で活発な意見をお願いする。

・ヤバイ

■司会　いろいろな意味で「ヤバイ」を使う。串原の「ヤバイ」について考えてほしい。

■市民１　今回こうやって若者が集まったというのは、2、3 年前に恵那市の若者会議に串原の代表として出て、若い衆で市長と話したいということを言っていてなかなかできなくて、今回地域自治区の人に話したらぜひやろうということでこうなった。地域自治区、振興事務所、今日来ておられる 3 名の方、ありがとうございます。

何がヤバイか。僕はＰＴＡ副会長として今回出ている。トマトを作っている。串原の農業がヤバイ。串原は中山間地で、今、年配の人が頑張って田んぼなどをつくっているが、あと 10 年したら結構つくれなくなる。3 割しか恵那・中津川市内で就職しない。街に出ていきながら中山間地で田んぼ、百姓をやっていくというのが難しい。後 10 年したら結構荒れてくる田畑が出てくる。

■市民２　福祉のヤバイ。私は福祉業界に勤めている。串原で働いていてすごく感じることは、合併する前の串原村だった頃は、役場の職員と住民の距離が近く感じた。何か困ったときにもすぐ相談できた。お年寄りも若い人も。ここのところ、包括支援センターが市役所に行ってからそこがちょっと遠くなった。どこへ相談して良いのか分からない。その窓口が一体どこなのか。それが分からないから、どうしたら良いのかも分からない。そこをはっきりしてもらえないと。これから先、串原はどんどん高齢化率も上がっていくので早めに手を打たないともっと大変なことになる。私たちも年を重ねていく上で、安心して住めない。包括支援センターを、恵南にもっと近いところに持っていくとか、もっと包括支援センターの担当の人に、頻繁に来てもらって住民を把握してもらうことをぜひしてもらいたい。

■司会　今日は、子育て世代や移住してきた人に来てもらっている。そういう方から話があれば。

■市民３　串原に来て 3 年目。来させてもらって、ごっつぅええとこやなぁと思ってあっという間に 3 年目に入った。

ヤバイと思うのは、僕が来てからでも、松本地区では、すでに働き手が 1 人 2 人と減ってきている。僕も手伝っているが、先ほど市民１さんがおっしゃったように、農業自体もヤバイし、地区の存在自体もヤバイ。放棄田が増えるし、働き手がないということは、独居で残っているお婆さんに声をかける人も減ってくる。山も荒れてくる。実感として目の

前の林がどんどん高くなっているのが 3 年で分かる。冬の間、陽が 2 時間しか当たらと感じている。地区の存在自体があと 5 年経ったらどうなるかという危機感を持っている。そういう意味でヤバイ。

■市民４　串原に来て 14 年になった。串原の学校は小学校、中学校を含めたＰＴＡになっている。学校統合も含めて、万が一、中学校が統合になったとき、果たして小学校のみで学校づくりをしていけるのかという不安な気持ちもある。串原こども園も今 14 名だ。小学校の児童は 31 人、中学校は 15 人で、世帯数、園、小、中を含めると 30 世帯。今後もっと世帯数が減っていく中で果たして子どもたちにとってより良い学校づくりができるのかも不安だし、子どもが少ないから地域と一緒になって手をかける必要があると思う。統合の話は 2 日後に控えているのでこれ以上のコメントは控えるが、小中学校のＰＴＡとしてちょっとそんな不安がある。

消防団がかなり少なくなっている中で今後串原の守りをどうしていくのかも不安だ。

■司会　学校統合の懇談会が金曜日に控えているのでそのときまた議論したい。それから消防団、地域防災を含め、いろいろなところで、働き手、地域を守る人たちが減っているというところで、ヤバイと思われているということだ。

■市民５　ＰＴＡ会長の話に関連して話す。統合のことにずっと携わっていた。中学校統合ということで、少なくなったから統合ということが教育委員会から来ている。が、私は逆じゃないかと思う。というのは、大学などでも、少人数教育が売りで、そういうのを売りにすると学生が来てくれるようになっている。マス教育をされていて、その弊害があって少人数の教育の方が良いということで、それを売りにすると学生も来るということだ。少ないというのは良い教育環境だ。今まで中学校、小学校に来てくれた先生方も、「串原は本当に良い教育の場なのでぜひこれを続けていってほしい。校長先生には内緒でね」みたいに言っていかれる。少人数だからこその教育を売りにして、教育というのは親が一番気にしていることなので、メディアでも言われているように、教育が充実したところにわざわざ移住するということもあって、串原の教育を売りにするような形で、そういう独自のものを認めてもらうような方針で行ってもらいたい。

例えば、単にＩＣＴと言ってＰＤＡやｉＰａｄを配っても意味がない。それで何をするかが重要。少人数だからこそプログラミングを先生が十分教えられるとか、もっとそういうものを利用して、英語教育、毎日遠隔で朝 10 分の時間を利用してＡＬＴの先生と英会話ができるような、そういったソフト面なら恵那市中でもできるし、プログラミングなら少人数の方が良い。少人数を利用して良い教育だということで人を寄せていくようなこともできる。よく教育長が大勢で切磋琢磨だと言われていたが、私はそれには一番反対で、

串原みたいな小さいところは今まで切磋琢磨してないのかということで、身近にいなくてもいろんな人が外にいるということが想像できるような教育を少ないからこそ充実してできると思う。統合は別にして、少ないという利点を生かした教育をもっと充実してほしい。

■市民６　市民５さんが良い意見を言われたので関連して。10 年前にやっとスマホが出てきて今気軽にネットができるようになった。今ネット通信で学校の授業を学ぶということが出始めている。10 年後これが当たり前になると思う。授業もネット配信で、恵那市でみんな同じ授業を受けることも可能になると思う。1 カ所に集めるのではなく、ネット環境にお金を使うことによって授業をするという方向性もあると思う。

「くらす」も、ネットで注文すればすぐ届くので、どこに暮らしていてもいい状態になってきている。今の 60 代はネットで当たり前に注文できるので、そういう人が年をとっても買い物には困らないと思う。10 年後にどういう世界になっているか。多分車も自動運転になっているので、道さえ整備してもらえばお年寄りの事故が増えるということも解決されている可能性もある。そういうことを考えて道路整備にお金を割くなどのことを考えていっていただきたい。未来どういう時代になるのか考えて、お金を使うべきところを考えてほしい。人口が減っていくのはしょうがない。1 カ所に集めるのではなく、少人数で学べるところ。何か特徴があれば、子育て世代の人は子どものためならどこでも引っ越してくる。給食がオーガニックとかいう県や市が出てきているので、そういうところに全国どこにでも引っ越していく。そういう特徴を恵那市も作ると良い。小中一貫校という売りでも良い。串原は小中一貫校のようなものだ。そうすると子育て世代も魅力を感じるし、住んでいる側も、恵那は良いなと思って、そういう子たちが巣立っていっても帰ってきたいと思う。中学校が遠くて大変だったという記憶が残れば、帰ってきて育てたいと思わない人が多いと思う。私たちが子どもの頃何て言われたか。「田舎に帰ってきても大変だから帰って来るな」と言われて帰ってこなかった人が多いと思う。楽しんでいる世界を見せてあげれば、絶対帰って来ると思う。今そうやって暮らせる環境、楽しむ環境を今つくっていただきたいと思っている。

■司会　では、今この串原で過ごす中で、ここが売り、これが自慢できる、帰って来たいと思えるものは何か。マイナスイメージばかりではなく、良いものがたくさんある。良いものというのは、関係人口というのも含まれていると思う。

■市民７　広島出身で結婚して串原に来て 12 年ぐらい経つ。ネット環境が調っているとか、買い物が今では 60 代でもできるという意見ももちろんある。私は、去年まで土岐のアウトレットまで仕事に行っていた。そこで仕事をする中で、通うのに道路も安全だといいなと思いながら通っていた。ネットで買い物ができる時代だが、やはり人と人が出会っ

て買い物する楽しさを伝えるという接客を一生懸命やっていた。串原も人の良さが魅力だといつも思っている。面白い人もいる、変わった人もいる、いろいろ教えてくれる人もいる、人から学ぶこと、人と接することが私にとって田舎ならではで、私は私で広島の地元が恋しくて帰りたくなるけど、そこにも人のつながりがあるから帰りたい、この人に会いたいから帰りたいと思うので、田舎か都会とか、ネット環境とか言うことよりも、私は皆さんと毎日交わす会話、今度どうする？の様な話すことが良く、一人一人が素敵で魅力だと思っている。

■市民８　私は 5 年ぐらい前に移住して来た。串原の良さは、人の良さ。小学校に説明を聞きに行ったとき、「ここは小さな学校だけど大きな教育を目指しています。だから安心して預けてください。」と言われた。その時 3 番目の子は不登校気味で結構大変だったのですが、ここに来てから学校を卒業するまで行って高校もほとんど休まずに行った。何が良いのだろうと言ったら、太鼓がすごく良かったと。私も夫が転勤族だったので 10 回いろいろな地を見てきて、ここほど子育てしやすい町はないというのを味わい、本当にみんなに助けられて育ててもらった。11 月に 10 番目が生まれる。安心してここなら産める。みんなに一緒にかわいがってもらっている。こども園から小、中で、地域全体に育ててもらっていると子どもたちも言っていて、「お父さんが転勤でも僕たちは引っ越さない。転職するかお父さんだけ行くか。」という話も出る。
それぐらい愛せる土地があるというのは素晴らしい。そのベースにあるのは、地域の皆さんの人の良さであり、落ちこぼれにしてくれない、放っておいてくれない。そこが辛さでもあり温かさでもありと子どもたちが言っている。子どもたちがこのままこの土地で生きていけるように親世代も何かできたらと思っている。

■市民９　僕も家がここからすぐ近くだ。若い世代が、2 人しかいない。あとは 65 ぐらい。10 年前から串原はヤバイ人ばっかりだと思っている。僕もスケボーパークを作ったり、年に 1 回、地域の人と集まっている。「何にも持って来んでいい」と言うが、ビール 1 ケース持って来る、本当に人が良い。何もしなくていいと言うのに気を使ってくれる。最後はベロベロになって歩いて帰られる。そういうのを見ていると、串原の人はみんな働きすぎだと思う。みんなめちゃくちゃ楽しく飲んだり話したりするので、そういう楽しむ場所をもっと増やせば。僕のかみさんが大分で、大分では腰が立たないぐらい朝から焼酎を飲んでいる。そういうのもありかなと思う。串原はみんな人が良いので、そういうところをもっと生かして行動していったら、子どもたちから見ても、きっと、楽しくやっているなというのは分かると思う。そういうところを見せられる人たちだと思う。パーティーを開催してみんながいろいろ話せば、そういうところでまたいい意見も出ると思う。なかなか

こういう場だと話しづらい。そういうのをやっていくといいかなと思った。
■司会　市民９君のところにスケボーパークができている。スケートボードができるように、ハーフパイプもできているし、ガラス細工もやっているので、遊びに行けば結構楽しいところだ。ビール１ケース持って遊びに行ってほしい。

■市民１０　市民９君の話は本当にそうだなと思う。大人が楽しそうにしていないと、子どもは早く出ていかなきゃという思いになると思う。私自身も子どもの頃から本当に悪口を聞かされて、とにかく早く就職して出なきゃということばかり考えていた。大人が楽しそうなら子どもがここに住みたいと思う。
■司会　楽しく過ごそうというのは大事なことだと思う。

■市民１１　自治区の副会長なので自治会から意見を言う。30 年ぐらい前だが、昔の移住者は、来ると権利ばかり主張する。街ではこうだった。串原では何もやってくれないと。さんざん文句を言ってＰＴＡの後援会費を払わないような人ばっかりだ。ところが、森林塾の皆さんが頑張ってくれて、最近の移住者は串原に対して大変協力的だ。僕も串原談義など好きなのでしゃべると、何か協力できないかと。串原をこうしたらどうだ、ああしたらどうだと、移住者が言ってくれる。現に「くしばす」が走っているが、20 名のうち 5、6 名は移住者が運転手だ。運転手はお金をもらえるがほとんどボランティアだ。それから、市民１７さんは去年の運営委員、市民１８さんは松本地区の区長だ。区長といったら地区のリーダーだ。リーダーが移住者だ。市民１４さんは今年の自治区地区の委員。市民３さんは太鼓で皆勤賞だ。皆さんが協力してくれるような態勢を作っている。ということは、移住者が単に来て人口を増やすだけではなくて、次のステージに進んでいることが分かってきた。いい環境になったと。それからこういう若い者の皆さんがどんどん自分たちで、自前でやろうとしている。どんどん力をつけてきている。そういうことを考えると、串原はだんだん良くなっていくのではないかと実感している。皆さん頑張ってください。

■市民１２　串原に移住して約 4 年だ。串原の良いところは、伝統を大事にしていること。中山太鼓、歌舞伎。奥矢作リフォーム塾の古きものを良くしていることも。さとのえきカフェのように古民家を使ったカフェをしているところも良い。後は、とにかく人が良い。年配の人が元気なので、僕らも頑張らないとダメだなと感じさせてくれる環境がある。その辺は伸ばしていきたいと思う。

・これからの串原
■司会　ヤバイから始まり良いところを見つめ直した。これからの串原をどうしていくか、

自分たちでできることは何か、できないことをどうしていくか。後半はそんな話をしたい。

■市民９　楽しむこと。
■司会　楽しむためには何をするか。
■市民９　パーティー。
■司会　今日もティーパーティー風に和みながらやっている。ざっくばらんに話したい。串原について、言葉にしている以上に普段考えていると思う。

■市民１　楽しむためには何をするか。お酒をしっかり飲み、酔っ払っていろいろな話をする。女性ならランチ会に行って普段思っていることをしゃべる。思っていることを口に出さないと始まらないと思う。口に出して形にできる態勢をとることで楽しんでいきたい。
■司会　そういう話も前々からある。みんなで話す中で、串原で野球をやりたいという話が出ている。今年何とか野球教室をやりたい。ざっくばらんに話す中で、そういう思いが実現していく。野球チームは作れないかもしれないが、今の子どもたちはボールを右手で投げるとき右足を出す。野球をやっていないから。そういうことで、今年中に野球教室をやろうと動いている人たちがいる。

■市民１３　自治区運営協議会という名前になっているが、僕も移住者で、ゴルフ場に勤めている。13 年前ぐらい、学生の頃ゴルフをやっていて、キャディーとして来て、3 年前に移住して来た。ゴルフ場でずっとお世話になっている。皆さんの言うとおり、良い人もいれば、悪い人もいる。まだ 30 代で若輩者だが、地域の皆さんにかわいがってもらっている。もうすぐ 3 歳の子と 1 歳の子がいるが、家庭の都合で仕事を換えることになっているが、地元が名古屋なので名古屋に出ていくとかいろいろ考えることもある。ただ、教育とかに対してこんなに熱心に考えているという地域もそうそうないし、名古屋で育ってきてそういうことをあまり感じたこともなかったので、改めてこちらの地域でお世話になりたい。ありがたいと思っている。うちの子どもがこれからずっとお世話になると思う。私はお酒が全く飲めないが、これからもよろしくお願いします。私も貢献したい。

■司会　皆さん地域にかかわり、1 人いくつもの役を抱えている。串原の人たちは働き過ぎだ。それだけ辛いのにできるのはこの地域が好きだからだと思う。
　いくつも役を持っている人にもお話を聞きたい。

■市民１３　2 年前、地域協議会の中に消防団の代表として入った。その前は、土岐市にいて土岐で働いていた。4 人兄弟の末っ子で、3 番目が家を継ぐと言ったので出たが、出

ていったので親孝行も兼ねて帰ってきた。帰ってきて 1 年は何もやらずにいたが、今はスポーツ推進委員、地域評議委員と消防団をやっている。辛い部分はあるが、助けていただいていることもある。これからも教えてもらうことばかりだ。多分この中では一番下だと思う。今年 33 歳だ。まだ結婚もしていない。

■司会　今日一番の若手だ。串原を出て行ったのに戻ってきて、いくつも役をやっている。恵那市のスポーツ推進委員の中でも一番の若手ぐらいだ。水辺のスポーツもやっていて、インストラクターの資格も取って、今年は颯風を一緒にやっていく。

■市民１４　私も 7 年前に移住してきた。串原の良いところは、7 年前に移住してよく分からない人を評議委員会に入れることだ。受け入れる態勢がすごい。

市長と話す機会がめったにないのでお願いがある。明知鉄道が赤字で困っているとアンケートを取るなら、通学定期を安くしてほしい。ここに住んでいる子が高校や大学に家から通えるぐらい安い通学定期を。沿線の町に分譲住宅を造ればいい。本数が少なすぎる。高い。それにつなぐ自主運行バスの制限があって、地域の人が運行しようと思っても、明智や岩村の駅に乗り入れできない。通学だけでも、あるいは通院だけでも、自主運行バスの制限の中で、公のところの協力があれば、多分この地域の人はまた別なことを考える。子どもらが野球をするなら、自主運行バスに自分で電話して、迎えに来てと言える。子どもは親の送迎なしでは動けない。でも、動けるなら、山間留学というのももっと増えるかもしれない。もっと考えるなら、旧コミュニティセンターは潰してほしい。駐車場にしてほしい。来るときは集まってくるけど、酒飲んだから置いて帰るところ。同じようにここまで市営バスが来て無料で乗り継げれば、次のインバウンドの人間を取り込むためのことを考えることができるかもしれない。だけど、今のまま自然といい方向へ向かうかというのは、正直言うと難しい環境だ。

■司会　そのほか、傍聴席からもメッセージをいただきたい。

■市民１５　私は串原に勤めて 3 年になる。皆さんと同じことを感じる。串原の人たちは本当に温かい。私はこの 3 年間それに助けられてきた。学校でも子どもたちに温かい部分で助けてもらって、幸せな時間を過ごしている。串原の人が串原のことを思って語ったこの言葉を、市長は聞いてくれたので、串原の人たちがこの会をやって良かったなと思える方向に進むことを願う。それと、私はこれからの串原を担う子たちを学校の教育で育てているので、ここの皆さんの熱い思いを反映していけるように、私たち職員も気合を入れて、少人数教育が良かったと地域の人にも思ってもらえるように改めて思った。

■司会　私は道徳の授業もたまにしている。串原中学校の１年生にアンケートを採った結果、串原が好きだと答えたのが 100%。言わせたわけではないが、素直な気持ちのようだ。地域の人がやさしい、みんなが協力し合える、顔を見たらあいさつできる、そんな些細なことから始まって、中学生のうちから地域のために何とかしたいという思いがあるようだ。そういった中学生の子たちが、中山太鼓保存会も人が少なくなり保存会のメンバーだけでイベントをこなしていくのが非常に厳しいということで、中学生の参加を求めているのだが、かなりの子たちが自主参加してくれている。数年前に観客 2 千人の前で叩くけどどう？という話をしたら、全員が参加した。中山太鼓を支えてくれている。遠征して大変でも、串原のために過ごしてくれている。環境の関係で残る人が 3 割ということだがいつか戻ってきてほしい。そのために今日の皆さんの意見を、現実にして地域づくりをしていけたらというのが今日の会議の良かったことだと思う。

ここ串原の振興事務所があるところだが、振興事務所と道路標識に英語で書いてある。岐阜県だと Gifu-Prefecture と書いてあるように。串原は何と書いてあるか。Kushihara-Promotion-Office だ。芸能事務所のようで格好いい。串原のプロモーターリーダーとして振興事務所長にコメントをいただく。

■振興事務所長　貴重な意見を聴かせていただいた。良いところ、悪いところ。今後の参考にしたい。私の地区も若い子がいる。大分年が違うが友だちのようにしゃべっていたつもりだが、すごいおじいさんに見えて、それも元気がなさそうに見えとったかと思うとちょっとたるい。そういった意味で、若者の意見が聴けてありがたい。こういった機会も 1 度ではなく、もっと皆さんの思いを聞いて、地域自治区会長が言われたように、まちづくりはみんなで一生懸命一緒になってやらないとできない。みんなの話をまた聴いて、次の串原のまちづくりに生かしていきたい。プロモーションかどうか分からないが、プロモーションしていきたい。

■司会　そのためには皆で力を合わせて、エネルギーを惜しまず出していきたい。そんな思いで皆さんの意見をまとめていきたい。

今日この話を聞いていただいた企画部長からコメントをいただく。

■企画部長　活発な御意見をいただきありがとうございました。企画を聞いたときはどうなるのかと少し不安だったが、司会者が巧妙で、それに乗せられて意見が出たと思う。

ヤバイというテーマからいろいろな意見を出してもらった。一つ一つにはコメントできないが、大方他の地域と似通った、少子高齢化といったところが共通の課題かなと思って

いる。その中でも特に、今日のテーマにもある、串原では少子高齢化の最前線地域ということで、そのために最先端の対応が必要だと思っている。

その中で、一つのヒントとしては、こういった機会に、若い人が集まって楽しいことをやって、意見交換をしていただき、もっとこうしていけば串原は良くなるのではないかといったところを、もっと深く話していただく中で、地域でもできることがあると思うし、行政でも手助けできることも出てくると思う。この場で決めるという状況ではないということなので、今後も引き続きこういった楽しい会を開催して、そういったところを探っていただければ、行政でも最先端の地域として試行的にでも支援できることがあると思う。

■副市長　明智から見ていると串原が非常にうらやましい。豊田に近いということもあり、密接につながりがある地域なので、明智と比べると開放感がある、明るさがある市民性、地域性があると思う。そういうところはぜひ継続してほしいし、今日聞いていたら移住している人が非常に多い。ここで移住の人の意見を聴き「こういうふうなのか」という実感だった。

包括の話があった。去年私もふと、包括の状況を聞いたときに、恵南でも南部の人たちの利用が少ないのではないかと。1 カ所にまとめたことの弊害が出ていると思って、去年からもう少しやる方法があるのではと検討を始めたので、何かの形はまもなく出す。

バスと明知鉄道。私も 7 年間ぐらい明知鉄道で通った。1 時間半に 1 本しかないので非常に不便だ。ただ、すれ違いが岩村にしかないのが致命的だ。岩村から恵那まで行って来るのに 1 時間かかる。そうするとどうしても本数として 1 時間に 1 本しか走れない。

この間、前県副知事の上手さんが、すれ違いを多くすれば本数は増やせるじゃないかと。確かにそうだ。とすると、今度は、すれ違いをし始めると列車の数が要る。列車の数が要ると運転手がたくさん要る。これでやっていけるかどうか。ただ、前県副知事は、リニアが来る頃には、明知鉄道は魅力的な一つの交通手段だから、将来的にはやっていくことも考えた方がいいという投げかけを受けた。これは経営としては難しい。隣に社長がみえて、この人が判断するにはなかなか難しいところがあると思った。ただ、今日聞いて、それは一つの提案だと思う。

バスは恵那全体で 1 億 6 千万位の税金を投入している。串原はまだ結構通っている方で、全く通っていない空白地帯がある。今高齢者の事故が多いこともあり、全体としても、間もなく何らかの交通体系を考えないといけない。皆さんも知恵を貸してほしい。

もう一つ、私の経験。7 年ぐらい前に恵那市の中で事件があり、それを解決する担当になった。通勤するのが嫌になり、阿木川ダムのトンネルが、吐き気がして通れない。そういうときに土日に農業をやって土をかまうと、非常にストレスが解消された。そういうこともあるので、農業にはぜひ馴染んでいただきたい。そういう魅力もある。うらやましい

と思った。

■市長　いくつか感想を述べる。

一つは、人口が減ってきたことの弊害が、農業や、地域のコミュニティーが上手くいかないのではないかということがあった。人口が減るのはある意味仕方ないと何となく考えていると思う。もう一つは、市役所で 2 年ぐらいやっているのは、人生 100 年時代で、60 歳で定年してそこから 40 年どうやって生きていくのかという話。60 歳から、元気でいられる 80 歳ぐらいまでの間にもう一度何かできることがあるのではないか。仕事をしてもらうのもいいし地域で働いてもらうのもいい、何か別のことをやるのもいいが、ステージとして、小学校、中学校、高校、大学、社会人第 1 期、社会人第 2 期、それから本当の意味での老後というステージを考えたとき、地域でのコミュニティーのあり方はちょっと考えてもいいと私自身は思っている。実際どうできるのかはなかなか分からない。

学校統合は、今度意見聴取があるということだが、教育委員会は、18 項目のうちの地域、ＰＴＡの皆さんの意見を聴く段階に来ていると思う。それで結論を出すわけではなく、それも要素の一つになっていくのではと思う。教育委員会の考え方もあるが、私自身の考え方としては、まずできることをやっていけばいいと思っている。父兄が、やっぱりこっちに通った方がいいということなら、そのときに皆さんで決めていただいていい。今やるべきことは、ハンディキャップがあるこの地域だからこそ、ＩＣＴやＩＴの力を借りて、できることをまずやるべきだということ。タブレットは各学校に必要な台数は全部整備した。ソフトウェアも大事だと思っている。今年 1 月、副市長と一緒に東京に行き、最新のＡＩを使った授業や学習教材をずいぶん調べてきた。理科や数学といった理系のカリキュラムでは圧倒的にタブレットを相手にした学習だけでも点数がすごい勢いが伸びるということ。平均点が何十点も伸びる可能性がある。それが良い、悪いということではなく、そういう可能性のツールがある。それから、ネットを介して、有名な先生の授業が受けられるチャンスがある。そういうものをどれだけ生かすことができるかが一つのポイントだと思う。そういう取り組みを、教育委員会から文科省の実証実験に手を挙げるようなところまで動き始めた。まずはできるところをやる。

でも、教育は学力だけではない。コミュニケーション、先生、ほかにもいろいろな要素が組み合わさって学校ができている。それでもほかの地域の中学校が良いということならそれも選択だと思う。

公共交通も、現状は副市長が申し上げたとおり。明知鉄道、バスも危機的状況だ。でも地域の足を奪うことは、これから先そこで安心して暮らせない。さすがにネットだけで暮らしていくわけにはいかない。公共交通は子どもと足のないお年寄りのためには残さないといけないツールだ。自動運転の車が 2025 年あたりから走り始めたらコストが安く回せ

る。それまでどう回すかがテーマだ。5 年か 10 年赤字が出ても何とかバスを回して、その先、電気自動車や自動運転みたいな車が各地域の高齢者のところに、ボタンを押したらそこに迎えにいけるような仕組みができれば、いち早く入れていきたい。今よりもはるかに安いコストでできる気がする。

今度、7 月に東京の会社と契約する。スキルシフトという会社。基本的には副業を斡旋する会社。スキルシフトに登録されている副業を希望する若い人がいる。グーグル、ヤフー、アップルのような一流の会社に勤めている。マネジメントの最先端を学んでいる人たちがいる。彼らは、お金よりもはるかに求めているのは、地方で私の活躍できる場所はないかとか、私の持っている技術を生かせるところはないかということらしい。実際に鹿児島県の大隅半島の農家が経営に行き詰まっていたときに、スキルシフトに相談したところ、経営の分析をきちっとしてくれて、どこに問題点があるかを把握して、こういう対策を取ればいいとアドバイスしてくれて、V字回復した。この会社と契約して、例えばこれから地方のあり方はどうしたら良いか、もしくは地方で会社をやっていくためにどんなことが必要か、インターネットを含めてマーケットの作り方、どう考えたら良いか、こんなことをアドバイスいただけるようなことは仕組みとして提供しようと思っている。串原全体でどうするかということでもいいし、ささゆりの湯をどうしようか、農業をどうしようか、ちょっと悩んでいることがあったら、こういうところを利用していただくのも良いと思う。月々に数万円でコンサルタントが雇える。活用いただきたい。

今日は少子高齢化の最先端地域での話だった。企画部長にお願いしているのは、最先端のこういった地域でこそ、やってみたいことがあったら出してほしいということだ。それにチャレンジして、それが 3 年後、5 年後に他の地域で適用できる可能性がある。だから、失敗しても良いのでチャレンジしてもらい、学んだことを、次に生かしてもらう仕組みにしてほしい。予算の枠、人のリソースが必要であれば用意する。細かくは振興事務所長、企画部から連絡して、手順を伝える。

■司会　今日、市長と副市長の席にトマトジュースを置いた。経緯を話す。

■市民１６　トマトジュースを飲んでいただきありがとうございます。私はトマト農家をやっている。私は去年から仕事を辞めて、主人が始めたトマト農家を手伝っている。中山間地域での農業と向き合っていく中で、私自身は農業には抵抗はなかったが、どういうふうに販売するか、どうやったら楽しく作業できるか、常に考えていて、その中で生まれた一つの商品だ。まちづくり補助金に助けていただき、良いトマトジュースを作ることができた。今、温泉とマレットで販売している。これからも串原の農業を、どうやって皆さんとかかわっていくか、農業とかかわっていくかをいつも考えている。今回、恵那暮らしビ

ジネスサポートセンターにもお世話になって、この商品を売り出すことができたので、引き続き串原の農業とトマトとすべてをよろしくお願いします。

■司会　串原のメンバーが一丸となって頑張っていきたい。閉会する。

〔　閉　　会　〕